

保護者・生徒の皆様へ

令和5年1月11日
大阪府立富田林高等学校
校長 萩原 英治

令和4年度学校教育自己診断結果について

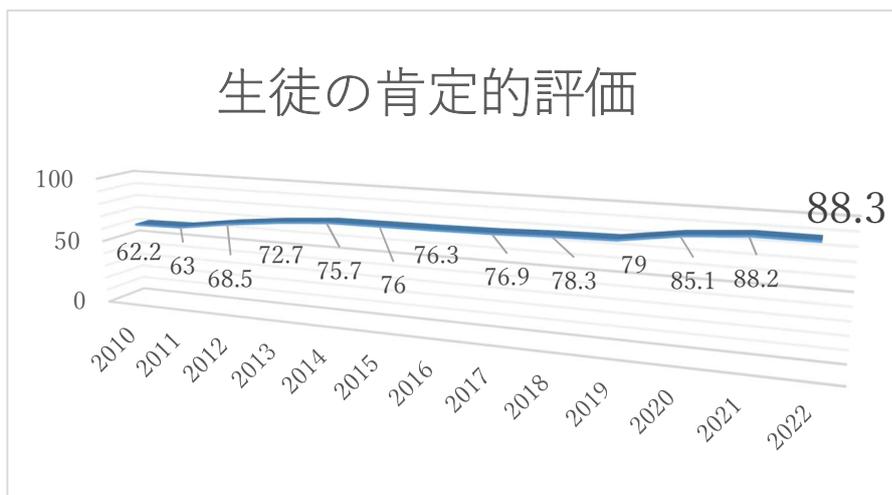
初春の候、保護者の皆様方におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。平素は本校の教育活動へのご理解・ご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、先日実施いたしました学校教育自己診断の結果が集計できましたので、全校生徒（高校）からの回答を中心に、その内容の一部をご紹介します。自己診断結果の全容につきましては、別添の資料をご参照ください。また、同内容を本校ホームページにも近日掲載予定です。

生徒の皆さんには、自分の学校生活の振り返る際に役立ててください。

生徒の肯定的評価は過去最高

右のグラフの通り、生徒の全質問項目に対する肯定的評価の割合は88.3となり、昨年度の88.2を超えて過去最高となりました。学校の友人関係や教職員との関係に満足している生徒の割合はそれぞれ96.2、93.6と共に過去最高となり、また「富田林高校へ進学してよかった」と肯



定的に捉える生徒も93.8と引き続き高い割合となるなど、コロナ禍における活動制限も次第に緩和される中で、生徒の皆さんが学校生活を楽しく過ごしてくれている様子が窺えます。

授業への評価は過去最高となる一方、生徒の一人一台端末の活用が課題

授業についての評価は、「わかりやすいか」「内容を深く考えさせる授業が多いか」という2つの観点においてそれぞれ85.2、87.5と過去最高となりました。また、「『授業は興味深く、力がつく』と子どもは言っている」という保護者への質問項目も今年度は73.0となり、この質問項目が新たに加わった2014年度の58.6という数値からも大幅に上昇しています。

一方、今年度から新たな質問項目として加わった「一人一台端末の活用」については 81.2 にとどまる結果となりました。この項目への生徒評価は学年間でのばらつきも大きく、今後は端末の効果的な活用に向けて全校的に取り組んでまいります。

また家庭学習について、1日 90 分以上している生徒の割合は高 1 と高 2 で減少しています。学校としても、一人一台端末も活用するなどしながら生徒が自分で自学自習に取り組める環境作りを進めていくとともに、生徒の皆さんの一層の頑張りにも期待したいと思います。

進路指導への生徒の肯定的評価も増加傾向

中高一貫校になって以来、本校では進路指導についてもさらに力を入れてまいりました。この進路指導に関する質問項目について、「進路達成に向けた学習支援」及び「進路情報の充実度」という 2 観点における生徒の肯定的評価はそれぞれ 88.2、94.1 とこちらも過去最高となり、本校の進路指導について一定満足してもらっているようです。引き続き進路に関する情報提供や学習支援を進めてまいります。

授業参観・保護者説明会への評価はコロナ前の水準に回復傾向

コロナ禍で保護者への授業参観など縮小傾向にありましたが、今年度は制限緩和の動きに伴い授業参観や保護者説明会の機会も増やしてまいりました。授業参観や保護者説明会の充実度について保護者に聞いたところ、肯定的評価はそれぞれ 88.0、91.0 とコロナ前の水準まで回復傾向にあります。「さくら連絡網」やブログでの情報発信などについての肯定的評価も 93.1 と高い数値となり、生徒の日頃の様子や様々な情報を提供する機会を引き続き少しでも多く設けてまいります。

また、2020 年度以降活動が制限されていた学校行事や部活動についても、感染対策をしながら実施してきた結果、学校行事に対する保護者の肯定的評価は 91.7 と、こちらもコロナ前と同様 9 割を超えるまでに回復してきております。一方で、国際交流についての評価は生徒で 84.9、保護者で 75.0 と依然として相対的に低い数値となりました。国際交流に期待して入学してこられた方も多く、この点は学校の課題として認識し、コロナの状況を見つつ今後の活動計画に生かしてまいります。

自由記述においても皆様から様々なご意見をいただきました。個人情報保護の観点などから公表は控えますが、教職員はもとより、学校運営協議会においても共有化を図り、今後の教育活動に生かしてまいります。学校教育自己診断へのご協力、誠にありがとうございました。